

交通事故防止のための2つのアプリを開発

2013年11月29日

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社(社長：鈴木 久仁、本社：東京都渋谷区恵比寿1丁目28番1号)は、交通事故防止に向けたタブレット端末用の2種類のアプリを開発いたしました。

開発したのは「なるほどアドバイス」アプリと「ヒヤリハットアニメ」アプリの2種類で、お客さまが当社の代理店・扱者のタブレット端末を通じて、自動車事故の過失割合の考え方や、ヒヤリハット事例を学び、体験することができます。

【アプリの概要】

①「なるほどアドバイス」アプリ

- ・日常発生しやすい主だった事故形態をピックアップして、事故状況を見ながら事故の過失の大きさをクイズ形式で確認できるものです。
- ・全部で33通りの事故形態を用意しています。
- ・クイズの後は解説とともに、事故形態に応じた事故防止のアドバイスを表示します。
- ・事故が発生した場合の対応（負傷者の救護措置から、事故報告まで6段階に分けた対処法）をお知らせする機能も備えています。

②「ヒヤリハットアニメ」アプリ

- ・子供の視点・大人の視点・高齢者の視点・自転車の視点・乗用車の視点・大型車の視点の6つの視点をベースとして、ヒヤリ・ハットとする状況を示し、アニメーション動画で事故防止を訴えるものです。

当社では、交通事故低減を損害保険会社としての重要な使命と認識し、今後もさまざまな取組みを行ってまいります。

以上

【別紙】各アプリの構成

「なるほどアドバイス」アプリ

①アプリの表紙



②事故形態を選択



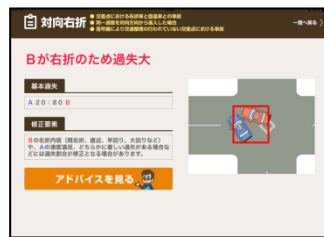
③クイズを実施



④クイズの結果を表示



⑤過失割合を解説



⑥事故防止のアドバイス



「ヒヤリハットアニメ」アプリ

(1)子供の視点

①歩道の子連れで歩く 親が子連れで立ち話



②子供を自転車に乗せて立ち話



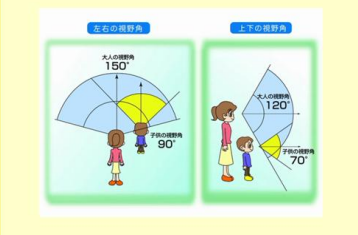
③子供を自転車に乗せて走行



④見通しが悪い交差点 横断歩道を渡らない



⑤子供の視野は狭い



※参考

下記数値に関しては、東京大学医学部大学院 医学研究科アンケートの資料(神奈川県警ホームページに掲載)から引用しています。

- ②「子供を自転車に乗せて立ち話」
自転車での負傷時の状況
・走行中が約42% ・停車中も約32%